

## (6) トルコギキョウ

### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
葉巻病 (TYLCV) (コナジラミ類)	<p>①施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防ぐ。</p> <p>②罹病植物を除去する。</p> <p>③ほ場内外の雑草はコナジラミ類の発生源となるので除去する。</p>	<p>①発生初期からコナジラミ類に適用のある農薬を散布する。 (例) ジノテフラン水溶剤(スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤など) (花き類・観葉植物(きくを除く)) チアメトキサム水溶剤(アクタラ顆粒水溶剤) ニテンピラム水溶剤(ベストガード水溶剤)(花き類・観葉植物(ばら、きくを除く)) ピメトロジン水和剤(チエス顆粒水和剤)(花き類・観葉植物) ビリフルキナゾン水和剤(コルト顆粒水和剤)(花き類・観葉植物(チューリップを除く))</p> <p>【参考事項】 タバココナジラミは薬剤感受性などが異なるバイオタイプが存在し、遺伝子診断のみで識別可能である。</p>
炭疽病 ( <i>Colletotrichum</i> )	<p>①発病葉や発病株は直ちに取り除き、適切に処分する。</p> <p>②適切な栽植密度や換気により、通風を良くする。</p> <p>③強い灌水により土壤を跳ね上げたり病斑上の分生子が飛散したりする場合があるので、注意する。</p>	<p>①発病初期から農薬を散布する。 (例) マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤)</p> <p>茎葉に汚れを生じるので、採花期直前には使用できない。</p>
灰色かび病 ( <i>Botrytis</i> )	<p>①日中は十分に換気したり、夜間暖房機を利用して、多湿を避ける。</p> <p>②適切な栽植密度や換気により、通風を良くする。</p> <p>③発病葉や発病花を早めに取り除き、適切に処分する。</p> <p>④栽培終了後の株は放置しない。</p>	<p>①発病初期から農薬を散布する。 (例) ジエトフェンカルプ・チオファネートメチル水和剤(ゲッター水和剤)(花き類・観葉植物(ひまわり、ゼラニウムを除く)) フルジオキソニル水和剤(セイビアーフロアブル20)(花き類・観葉植物(きんせんか、ホットレースフラーを除く)) ベンチオビラド水和剤(アフェットフロアブル)(花き類・観葉植物(きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く)) ポリオキシン水溶剤(ポリオキシンAL水溶剤)(花き類・観葉植物) 抵抗性系統を発生させるおそれがあるので、同一系統農薬の連用は避け、ローテーション防除する。</p>
アザミウマ類	<p>①施設やその周辺の除草をする。</p> <p>②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットや0.8mm目合いの赤色系ネットを張り、侵入を防止する。。</p>	<p>①発生初期から農薬を散布する。 (例) アセタミブリド水溶剤(モスピラン顆粒水溶剤)(花き類・観葉植物(ストック、りんどうを除く)) アバメクチン乳剤(アグリメック)(花き類・観葉植物(ガーベラを除く)) トルフェンピラド水和剤(ハチハチフロアブル)(花き類・観葉植物) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、作用性の異なる系統の農薬でローテーション防除を行う。</p> <p>②生育期に農薬を株元散布する。 (例) ベンフラカルプ粒剤(オンコル粒剤5)(花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)、オンコルOK粒剤(花き類・観葉植物))</p>
アブラムシ類	<p>①施設やその周辺の除草をする。</p> <p>②施設の開口部に目合い1mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。</p> <p>③定植時に光反射フィルムを使用したマルチやシルバーテープを貼るなどの忌避対策を行う。</p>	<p>①発生初期から農薬を散布する。 (例) ジノテフラン水溶剤(スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤など) (花き類・観葉植物(きくを除く)) ビリフルキナゾン水和剤(コルト顆粒水和剤)(花き類・観葉植物(チューリップを除く))</p> <p>②発生初期から農薬をくん煙する。 (例) アセタミブリドくん煙剤(モスピランジェット)</p> <p>③発生初期から農薬を株元散布する。 (例) クロチアニジン粒剤(ダントツ粒剤)(花き類・観葉植物(きくを除く)) ニテンピラム粒剤(ベストガード粒剤)(花き類・観葉植物(きく、きんせんかを除く))</p>
		<p>【参考事項】 ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマなどが寄生する。 被覆資材として近紫外線除去フィルムを使用することにより、被害を軽減させることができている。 高温期の作型で多発しやすい。</p>

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
クロバネキ ノコバエ類	①灌水過多にならないようする。 ②未熟な堆肥を使用しない。 ③施設の開口部に目合い 1 mm 以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。	①発生初期から農薬を土壤灌注する。 (例) シロマジン液剤（トリガード液剤）（花き類・観葉植物）
	<b>【参考事項】</b> 育苗用土やほ場に多量の有機物を投入したり、土壤水分が多い状態で多発する。	
シロイチモ ジヨトウ	①施設の開口部に目合い 4 mm 以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。	①発生初期から農薬を散布する。 (例) クロマフェノジド水和剤（マトリックフロアブル） テブフェノジド水和剤（ロムダンフロアブル）（花き類・観葉植物（きくを除く））
ハダニ類	①施設やその周辺の除草をする。	①発生初期から農薬を散布する。 (例) アセキノシル水和剤（カネマイトフロアブル）（花き類・観葉植物（ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く）） エトキサゾール水和剤（パロックフロアブル）（花き類・観葉植物） シフルメトフェン水和剤（ダニサラバフロアブル）（花き類・観葉植物） ピフルブミド・フェンピロキシメート水和剤（ダブルフェースフロアブル）（花き類・観葉植物） フェンピロキシメート水和剤（ダニトロンフロアブル）（花き類・観葉植物） 薬剤抵抗性の発達を回避するため、作用性の異なる系統の農薬でローテーション防除を行う。
	<b>【参考事項】</b> 比較的乾燥した条件で増殖率が高い。	